



Vol.1

村山先生に聞く!

外耳炎ケアのポイント

回答者: 犬と猫の皮膚科 代表 村山信雄 先生

イズオティックとローションまたはソルーションの点耳薬をどのように使い分けていますか?

(質問者:姫路市内開業獣医師)

点耳薬を選択するに当たって注意していることはステロイドの力価と点耳薬の剤形です。

Point 1: 点耳薬のステロイドの力価

現時点でステロイドの力価を決める評価基準はないですが、私は、「紅斑」・「丘疹」・「腫脹」の3項目のうち何項目満たすかでステロイドの力価を変えています。

●1項目しか満たさない場合:

ミディアムのステロイドを選択

●2項目以上の場合:

ストロング以上の力価のステロイドを選択

ヒドロコルチゾンアセポン酸エステルはストロング以上のアンテドラッグ(経皮吸収により力価が落ちることで副作用が少ない)であるため、積極的に使用することが可能です。

Point 2: 点耳薬の剤形

点耳薬の剤形としてはローションまたはソルーション、もしくはパラフィン液(イズオティック[®])を選択しています。水平耳道の炎症、または軽症例ではローションまたはソルーションの点耳薬を使用する機会が多く、外耳道全体の炎症、または重症例ではイズオティック[®]を使用する機会が多くなっています。耳道の一般的な体積は約0.7mLであることを考えると、

1滴が0.04 - 0.05mLのローションまたはソルーションの点耳薬の場合、1回5滴点耳したとしても外耳道全体に長時間効果を期待することは難しいかもしれません。一方、イズオティック[®]では1プッシュ1mLと決められた量を外耳道に注入し、基剤がパラフィン液であることから、水平耳道や腹側面だけではなく、確実に外耳道全周に点耳薬が付着することが期待出来ます。

多くの外耳炎では、紅斑、丘疹、腫脹のうち2項目以上を満たす症例が多く、そのことを踏まえるとイズオティック[®]を第一選択の点耳薬として使用する機会が多いです。

2分でわかるイズオティック[®]の使い方



動画はこちら
(音ができます)



劇 動物用医薬品 指定

外耳炎治療薬 犬用

イズオティック[®]
EASOTIC[®]



ユニークなボトル設計



動物用点耳薬初
アンテドラッグステロイド



とろみのある性状

Virbac

Shaping the future of animal health

教えて イヤーケア! Vol.1



犬と猫の皮膚科 代表 村山信雄 先生

トイ・プードルの外耳炎って治りますか?

外耳炎とは「外耳の炎症」です。つまり、そこに起きている症状を病名として使用しているだけであり、外耳炎が「なぜ?」起きているかを考えなければいけません。

トイ・プードルの外耳炎で考えなければならないこと:

1. なぜ外耳炎になるの?
2. 外耳炎は治るの?

1. なぜ外耳炎になるの?

トイ・プードルは本来、水の中に入りて仕事をする犬種です。そのため、全身の被毛はカールして水となるべく皮膚につかないように、耳にはしっかり毛が生えて水が中に入らないようにしていると思われます。また水が入ったとしても、脂っぽい体質のため水をはじくことができます。

耳垢の成分はフケ、あぶら、および汗からなっており、あぶらっぽい体質のトイ・プードルでは健康な状態であったとしても、べとべととした耳垢が耳の中にあります。トイ・プードルはフランス原産と考えられており(諸説あります)、フランスに比べて高温多湿な日本では、このあぶらっぽい体質が外耳炎の引き金となっている場合が多く見受けられます。

●考え方

- ・若い年齢+比較的高温多湿な時期
➡ まずあぶら症を考える
- ・中高齢+若齢での外耳炎経験なし
➡ あぶらの代謝に変調をきたす疾患を考える

あぶらの代謝異常を引き起こす甲状腺機能低下症に関する皮膚病の一つとして外耳炎がみられることがあります。

このように、外耳炎はあくまで「耳の炎症」を意味する現症名であり、繰り返し外耳炎がみられる場合には「なぜ?」を考える必要があります。

2. 外耳炎は治るの?

トイ・プードルの外耳炎の多くは、あぶら症という体质から生じているため、多くの症例が「生涯に渡ってお付き合い」しなければいけないものです。したがってあぶら症による外耳炎と診断された場合、現状の外耳炎の症状が無くなることはありますが、完治する(すなわち二度と外耳炎にならない)ことは非常に困難です。

●あぶら症による外耳炎の付き合い方

- ・軽症 ➡ 定期的に耳を洗浄するだけで維持管理が可能なこともある。
- ・重度のあぶら症 ➡ 耳の洗浄だけでは難しく、外耳炎に対する治療として点耳薬を使用する場合がある。

●甲状腺機能低下症による外耳炎の付き合い方

- ・外耳炎の治療と甲状腺ホルモンの内服が必要となる。
- ・定期的な耳の確認と共に身体検査、血液検査、ホルモンの測定などが必要となる。

最新トピックス

人や犬の代表的な皮膚病であるアトピー性皮膚炎に対して健康な状態であるからこそ定期的に塗り薬を使用するプロアクティブ療法が実施されています。外耳炎に対するプロアクティブ療法は、まだ十分に検討されていませんが、何度も外耳炎を繰り返すトイ・プードルに対しては外耳炎版プロアクティブ療法として、週1-2回の点耳薬を定期的に実施してもらうことがあります。定期的な点耳により、あぶら、すなわち耳垢の量が軽減し、外耳炎になりにくくなることが期待出来ます。

トイ・プードルの外耳炎は生涯に渡って上手くお付き合いする可能性があり、定期的に動物病院で耳の確認をして頂く方が良いかもしれません。しかし、多くの犬では病院での耳処置の後、自宅での点耳などにより快適な生活を過ごすことが可能と思われ、その子にあった適切なイヤーケアを提案して頂くことが重要です。

【イヤーケアブック】
定期的なイヤーケアのご提案

